

大谷^{おほたに}は双林寺^{さうりんじ}に隣りて、良^{ひがしほんぐわんじ}にあり、東本願寺^{とうほんぐわんじ}の祖廟なり。阿弥陀堂の本尊は安阿弥^{あんあみ}の作、親鸞^{しんらん}聖人^{しょうにん}の廟塔は後の山腹にして、墳上に虎石あり、石の形虎に似たれば名とす。此石はじめは開山聖人往生の地、柳馬場押小路^{やなぎのぼば おしこうぢ}虎石町^{とらいし}に有、秀吉公^{よしこう}の御時伏見城中^{ふしみじやう}に移し給へり、其後かの地より又こゝにうつす。聖人の御墓ははじめ東本願寺^{とうほんぐわんじ}の境内七条^{しちじょう}の北にあり。〔世の人旧地を御墓町^{はかまち}と呼ぶ〕夫より此地に遷して元禄年中に造営あり、廟前の莊嚴みやびやかに微妙見えたり。〔大谷の名義は初めに載ることく、花頂山^{くわちやうざん}の旧号をもつて名づくるなり〕此地にも桜多くして弥生の頃は貴賤群をなせり。